

前川ゼミナール

第5回 久々の日本株相場活況でのご提案

前川 貢略歴

19年間の大和証券勤務のうち、10年を債券のエキスパートとして活躍。独立後は個人の資産形成をサポートする活動を続けている。生活設計塾クルーの提携先でもある。前川FP事務所アドバンス代表

7月7日の週は、米国企業の4 - 6月期の業績が続々と発表される。当初、業績の裏付けがない株高と言われ、上昇をいぶかしむ向きも多かったが、現在では「4 - 6月期の業績は良くても当たり前」という見方が多く、7月4日米国独立記念日を境に一段高を期待する雰囲気になった。

第13号クルーレポート「MSI通信」を読み返していただきたい。そもそも、今回の日本の株高は、ニューヨーク発。日本株を買えていないのは、日本人だけ。外人買いで、厚生年金基金の代行返上の株売却も、金融機関の株資産圧縮の売りも吸収された。おまけにネット証券を通じて、日本人離れしたセミプロの個人投資家が利益を上げ、うれしい悲鳴を上げているとの声も聞く。そして、米国企業の決算発表次第では、世界同時株高にさらに拍車がかかるかもしれない。

日本株を衝動買いする前に

こんな話を耳にすると、なんだか落ち着かなくなり、衝動買いに走りそうな人が多いので、私から提案したい。

「少くとも株式を買っておけば良かった」と思った方への提案
株式は上がり続けることはありません。今後も株式を購入するタイ

ミングはいくらでもあります。次回の買いのタイミングに備え、「どういう企業に投票するのか」という株式投資を学ぶ機会にしましょう。

株式をお持ちの方への提案

「これから購入する人の気持ちになって、持ち株を眺め、「この上を買おう人は偉い」と売却する決心のついた人は、活きた資産にするために現金化しましょう。

株式投資信託をお持ちの方への提案

今こそご自身が持っていた投資信託がプロの運用と言える投資信託かどうかの試しどころです。株式全体が下がっているときは、すべての投資信託が下がっているので、良いファンドかどうかわかりにくい。上昇相場では、下がっている時にプロとしての手入れをしてきたかどうかの結果が実績に現われます。「下がるきは一人前に下げておいて、上がるときにはたんでおかない」。そんなファンドは長期投資には向きません。インデックスファンドや同類のファンドと比較しましょう。

相場の変化は、プロの投資信託を見分ける良い機会である。

魅力を増す外債投資

それから、是非覚えておいて頂き

たい。上がるものあれば下がるものあり。日本株が上昇すると、むしろ割安になり魅力的になるものがある。債券だ。特に外国債券が割安になる。株価に上昇期待が高まる 安全資産から株式投資 債券売却に伴う金利上昇 日本株投資拡大見込み 円高進行。こうした構図により、株価が上昇する局面は、海外金利が上昇し外債の魅力が高まり、その上為替が円高となり、より購入しやすい環境を与えてくれる。

ちなみに、米国の10年国債は6月13日に3.11%をつけた。これはなんと45年ぶりの低水準である。ドイツ国債は3.46%。(この時に、「今は外債だ。毎月分配型投信だ」と騒いでいた。ブームとはこんなものです)。7月7日現在、米国は3.72%。ドイツは4.01%だ。今後株高が続けば、さらに好条件で外債を手にすることができるかもしれない。

為替の水準も米ドル118円、ユーロ135円と割高な水準ではない。日本株投資一色の世の中に流されず、外債投資に取り組む機会としてワクワクと眺めてみたい。必ず選択肢はある。これしかないと思ひ込まないよう注意したい。

(7月8日記)